

2000年度総会議題

議案 1

1999年度事業報告

1. 会員数の動向 (2000年3月31日)

会員数合計	4579(昨年より -6)
通常会員	4,046(-10)
一般 A	2,798(-22)
B	937 (0)
学生 A	240 (+13)
B	71 (-1)
特別会員	191(+7)
個人	54(+5)
団体	137(+2)
団体会員	291 (-3)
団体 A	118 (-7)
B	173(+4)
賛助会員	43 (0)
名誉会員	8 (0)

2. 機関誌等の刊行

- (1) 天気 46巻4号～47巻3号 12冊(824頁)
昨年度より127ページ減。各号約4650部印刷
- (2) 気象集誌 77巻2号～78巻1号 6冊(1,118頁)
昨年度より67ページ減。各号1900部印刷
- (3) 気象研究ノート
 - 194号 「気象測器—高層気象観測」
252頁 1850部 印刷
 - 195号 「陸面過程の研究の現状と将来」
80頁 1850部 印刷
 - 196号 「非静力学モデル」
196頁 1850部 印刷
 - 197号 「台風—解析と予報—」
286頁 1850部 印刷
- (4) 予稿集
 - 春季大会 1500部 印刷
 - 秋季大会 1500部 印刷

3. 会議等の開催

- (1) 総会 1999年4月27日 KKR ホテル東京
出席者：250名、委任状：865名
計：1,115名
- ア 1998年度事業報告・決算報告、
1999年度事業計画・予算が承認された。
- イ 理事の辞任に伴う補充選任が承認された。
辞任：竹村行雄 新任：澤井哲滋
城尾泰彦 上程哲郎
古川武彦 巽 保夫
高橋 昭 古賀晴成
由良 武 長坂昂一
- ウ 「総会定足数に関する定款の一部改正」
が承認された。

(2) 理事会

- 第30期(第4回) 1999年4月26日 東京
- 第30期(第5回) 1999年11月24日 福岡
- 第30期(第6回) 2000年3月22日 東京

(3) 常任理事会

- 第30期(第9～18回) 10回 気象学会事務室

(4) 評議員会

- 第30期 第2回 2000年3月22日
会場 竹橋安田ビル 四季交楽「然」

4. 大会及び研究会等

- (1) 春季大会 1999年4月26～28日
会場：気象庁・KKR ホテル東京
(担当：気象庁観測部)
日本気象学会賞・藤原賞受賞記念講演
- (2) 秋季大会 1999年11月24～26日
会場：アクロス福岡
(担当：九州支部)
シンポジウム「中層大気中の長周期振動」
- (3) 研究会、月例会等
 - ア IGBP/GAIM 研究連絡会
福岡 1999年11月27日
 - イ 極域・寒冷域研究連絡会
東京 1999年4月28日
福岡 1999年11月26日
 - ウ メソ気象研究連絡会
福岡 1999年11月23日
 - エ ヲゴン研究連絡会
東京 1999年4月26日
福岡 1999年11月24日
 - オ シンポジウム「気象学に開かれゆく世界」
東京 1999年4月26日
福岡 1999年11月24日
 - カ 第11回夏の学校
三重 1999年7月17～19日
 - キ 第42回山の気象シンポジウム
東京 1999年6月19日
 - ク 長期予報と大気大循環
東京 1999年10月25日
- (4) 他学会との共催等
 - ア 第36回理工学における同位元素研究発表会
1999年7月5～7日
 - イ 第46回風に関するシンポジウム
1999年12月21日
 - ウ 第13回数値流体力学シンポジウム
1999年12月21～23日
 - エ 第49回理論応用物理学講演会
2000年1月25～27日

5. 研究業績の表彰

- ア 日本気象学会賞
川村 隆一 富山大学地球科学科
山内 恭 国立極地研究所
- イ 藤原賞
浅井 富雄 科学技術振興事業団
- ウ 山本・正野論文賞
加藤 輝之 気象研究所
山本 勝 和歌山大学教育学部
- エ 堀内賞
原園 芳信 農業環境技術研究所
松枝 秀和 気象研究所
- オ 奨励賞
須田 卓夫 秋田地方気象台
松浦 健次 宮崎地方気象台

6. 支部活動

- (1) 北海道支部
ア 研究発表会 (札幌) 1999年6月4日
(札幌) 1999年11月19日
イ 講演会 (北見) 1999年10月16日
(札幌) 2000年3月6日
- (2) 東北支部
ア 支部講演会 (仙台) 1999年10月20日
- (3) 中部支部
ア 総会 (名古屋) 1999年7月21日
イ 支部研究会 (静岡) 1999年11月18,19日
- (4) 関西支部
ア 総会・年会 (大阪) 1999年6月15日
イ 例会・講演会 (広島) 1999年10月16日
(宇治) 1999年10月28日
(高松) 1999年11月20日
(神戸) 2000年2月16日
- (5) 九州支部
ア 支部講演会 (鹿児島) 2000年3月6日
- (6) 沖縄支部
ア 親と子のお天気教室
(糸満) 1999年7月31日
イ 防災気象講演会 (那覇) 1999年9月7日
イ 気象研究会 (那覇) 1999年11月10,11日

7. 普及活動

- (1) 第33回夏季大学
1999年8月2~4日
東京大学山上会館 (本郷キャンパス内)
「新しい気象学」
- 台風の理解はどこまで進んだか -
- (2) 関西支部第21回夏季大学
1999年7月27、28日 大阪市立科学館
「大雨と災害」

- (3) 北海道支部第17回夏季大学
1999年7月29、30日
第1日目 札幌市青少年科学館
第2日目 札幌管区気象台
「新しい気象」
- (4) 中部支部 第6回気象講座
1999年8月9日 名古屋
- エルニーニョ現象と異常気象 -
- (5) 文部省研究成果公開促進補助金
による講演会
東北支部 1999年8月5日
- 岩手の気象災害軽減を目指して -
- (6) 気象技術講習会
ア 気象学の基礎 (第2回)
1999年8月18日~12月8日 (毎週水曜日)
イ 専門課程 (第2回) 数値予報
1999年10月24~28日

8. 国際学術交流活動

国際学術研究会集参加補助

前期 (10名)

- 1) GEWEX (北京) 3名
- 柳 錦平 (防災科学技術研究所)・戸田 求 (京都大学)・
山田 広幸 (北海道大学)
- 2) IUGG99/IAMAS(Birmingham) 5名
鈴木 真一(東京大学)・内藤 陽子 (京都大学)・中田 隆
(東京大学)・吉識 宗佳 (京都大学)・渡辺 信吾 (九州大学)
- 3) ケンブリッジ、summer school 1名
田口 正和 (京都大学)
- 4) シドニー 国際生気象学会、国際都市気候学会 1名
森 牧人(筑波大学)

後期

無し

9. 電子情報関連

- (1) 文部省学術情報センターによる電子図書館
サービス運用開始
気象学会の機関誌(気象集誌・天気)も電子化され
インターネットを通してユーザーに閲覧可能となった
- (2) 学術情報センターによる気象学会編「学術用語集」
データベース作成・公開

10. その他

- (1) IUGG/IAMAS 総会 (気象学会代表木田理事)
及び研究発表会(気象学会員多数)への参加

議案 2

(社団法人)日本気象学会
1. 収入の部(1) (円)

収 支 計 算 書

1999年度 1999年4月1日より 2000年3月31日まで

勘定科目	予算額 (A)	決算額 (B)	内 訳		差異 (B-A)	達成率 (B/A)	備 考
			公益部門	収益部門			
1. 会費収入	40,815,000	40,822,702	40,822,702		7,702	100.0%	
2. 基本財産運用	705,000	524,983	524,983		△ 180,017	74.5%	
3. 事業収入	39,285,000	40,642,421	17,135,792	23,506,629	1,357,421	103.5%	
4. 補助金収入	5,310,000	4,510,000	4,510,000		△ 800,000	84.9%	
5. 寄付金収入	0	100,000	100,000		100,000	***	
7. 引当金取崩収入	0	1,222,800	1,222,800		1,222,800	***	
8. 雑収入	254,000	840,206	786,566	53,640	586,206	330.8%	
当期(純)収入合計 前期繰越収支差額	86,369,000 15,707,010	88,663,112 15,707,010	65,102,843 14,066,331	23,560,269 1,640,679	2,294,112 0	102.7% 100.0%	
収益から公益へ寄付		1,450,000	1,450,000		1,450,000	***	
収入合計		105,820,122	80,619,174	25,200,948			

(社団法人)日本気象学会
1. 支出の部(1)

収 支 計 算 書

1999年度 1999年4月1日より 2000年3月31日まで

勘定科目	予算額 (A)	決算額 (B)	内 訳		差異 (B-A)	達成率 (B/A)	備 考	
			公益部門	収益部門				
1. 事業費	60,386,000	55,123,775	43,173,056	11,950,719	△ 5,262,225	91.3%	(収) 広告、別刷経費 (収) 別刷経費 (収) 広告経費 会場費、運営費	
天気	26,798,000	24,365,522	20,757,601	3,607,921	△ 2,432,478	90.9%		
気象集誌	11,794,000	11,480,081	10,227,673	1,252,408	△ 313,919	97.3%		
気象研究ノート	8,793,000	7,000,886		7,000,886	△ 1,792,114	79.6%		
予備費	2,412,000	2,768,388	2,678,884	89,504	△ 356,388	114.8%		
大会開催	4,900,000	4,917,785	4,917,785		△ 17,785	100.4%		
教育と普及	1,369,000	1,343,710	1,343,710		△ 25,290	98.2%		
表彰・奨励	2,750,000	1,996,133	1,996,133		△ 753,867	72.6%		
国際学術交流	1,320,000	1,055,700	1,055,700		△ 264,300	80.0%		
研究連絡	250,000	195,570	195,570		△ 54,430	78.2%		
2. 管理費	27,237,000	29,620,631	22,033,725	7,586,906	2,383,631	108.8%		郵便料 過剰納金返却・受取人払担保金
人件費	14,365,000	14,250,870	10,688,152	3,562,718	△ 114,130	99.2%		
退職金	0	1,222,800	1,222,800		△ 1,222,800	* * * * *		
事務局関連経費	7,389,000	7,102,938	5,392,563	1,710,375	△ 286,062	96.1%		
電子情報	188,000	164,625	123,468	41,157	△ 23,375	87.6%		
電算機開発管理	250,000	188,073	141,054	47,019	△ 61,927	75.2%		
総会・役員会	1,847,000	1,805,127	1,353,845	451,282	△ 41,873	97.7%		
選挙費用	668,000	591,768	443,826	147,942	△ 76,232	88.6%		
支那交付金	2,500,000	2,417,450	1,813,087	604,363	△ 82,550	96.7%		
租税公課	30,000	1,603,100	581,050	1,022,050	△ 1,573,100	534.7%		
その他管理費	0	273,880	273,880	0	△ 273,880	* * * * *		
4. 引当金繰入	620,000	635,745	635,745		15,745	102.5%		
5. 予備費	1,000,000	0	0	0	△ 1,000,000	0.0%		
当期(純)支出合計	89,243,000	85,380,151	65,842,526	19,537,625	3,862,849	95.7%		
税引前次期繰越収支差額	12,833,010	18,989,971	13,326,648	5,663,323	6,156,961	148.0%		
法人税等引当金繰入		2,500,000		2,500,000	2,500,000	* * * * *		
収益から公益へ寄付		1,450,000		1,450,000	1,454,000	* * * * *		
次期繰越収支差額		16,489,971	14,776,648	1,713,323				

議案 3

1999 年度社団法人日本気象学会監査報告

1999 年度社団法人日本気象学会の財産及び業務執行の状況を次のとおり報告する。

1. 監査月日
2000 年 4 月 7 日
2. 監査場所
東京都千代田区大手町 1-3-4 気象庁内
日本気象学会事務局
3. 監査帳簿
 - (1) 1999 年度会計監査受験調書
 - (2) 総勘定元帳
 - (3) 財産目録
 - (4) 現金出納帳
 - (5) 預貯金出納帳
 - (6) 備品台帳
 - (7) 領収書類
 - (8) 預金証書および普通預金通帳
 - (9) 郵便振替受払通知票
 - (10) 現金受領簿
 - (11) 小切手帳および小切手受払簿
 - (12) 1999 年度事業報告書
4. 監査内容
 - (1) 1999 年度収支計算書およびその他の計算書について、その経理状況を監査すると共に財政状況を調べた。
 - (2) 上記の帳簿類について照合を行うと共に出納状況記載事項の監査を実施した。
 - (3) 学会の運営状況を聴取し意見を述べた。

5. 監査意見

1999 年度 (1999 年 4 月 1 日から 2000 年 3 月 31 日まで) の会計に関する帳簿類は、照合の結果、正確であり、収支計算書その他の計算書は正しいと認める。

会費の納入状況は昨年度に引き続き順調に推移している。単年度収支では約 150 万円の黒字となった。黒字は数年来続いている、この蓄積を 2003 年開催の IUGG 総会費用、他の新規事業、事務局の一層の近代化等に向けて計画的に有効利用することを望む。

ペイオフは 2002 年に延期されたが、基本財産、

流動資産の分散化を至急行うべきである。その際、基金の安定的な運用に留意されたい。

今年度、税務調査があり消費税に関する指摘があった。今後、税務署及び公認会計士の指導にしたがい税務処理に遺漏のないよう心がけるべきである。

昨年度も指摘したが、会計業務は年々規模が拡大しており、事務局における会計業務の効率化と責任分散体制の構築を図る必要が有る。パソコンによる会計システムを導入するなど効率的な事務体制作りを計画的に進めなければならない。

会員数については、長年続いていた B 会員の減少が止まったが、A 会員が減少した。従来と異なる傾向が現れたので、今後の推移に注意する必要がある。

気象学の普及と教育については、評議員会での議論を始めとして積極的に取り組もうとしている。「気象予報士」を対象とした「気象技術講習会」の開催、支部での一般向けの普及活動など、学会全体として更に活動を強化していくことを望む。


「天気」、「気象集誌」、「気象研究ノート」は計画通り発刊された。今後も順調な発行を期待する。

昨年、総会成立の要件が改訂され、理事会、事務局は次年度からの総会成立に向けて努力をされている。学会員の協力を期待する。

この一年間、様々な学会活動に熱心に取り組んでこられた理事、各委員会委員、事務局の努力に敬意を表する。

2000 年 4 月 7 日

監事

中村 一 

監事

徳野正己 

日本気象学会第31期役員選任について

議案 4

1. 役員候補者選挙において当選した役員候補者

《理事》(22名)

○全国区(9名)

新野 宏 東京大学海洋研究所助教授
 山内 恭 国立極地研究所教授
 廣田 勇 京都大学大学院理学研究科教授
 住 明正 東京大学気候システム研究センター長・教授

木田秀次 京都大学大学院理学研究科教授
 田中 博 筑波大学地球科学系講師
 山岸米二郎 (財)高度情報科学技術研究機構特別招聘研究員

関口理郎 成蹊大学講師
 二宮洗三 東京大学気候システム研究センター客員教授(現和洋女子大学講師)

○北海道地区(2名)

巽 保夫 札幌管区気象台長
 藤吉康志 北海道大学低温科学研究所教授

○東北地区(2名)

安田延壽 東北大学大学院理学研究科教授
 竹村行雄 仙台管区気象台技術部長

○関東地区(2名)

藤部文昭 気象研究所予報研究部主任研究官
 神沢 博 国立環境研究所大気圏環境部大気物理研究室長

○中部地区(2名)

田中 浩 名古屋大学大気水圏科学研究所教授

○関西地区(2名)

岩嶋樹也 京都大学防災研究所教授
 古賀晴成 大阪管区気象台長

○九州地区(2名)

長坂昂一 福岡管区気象台長
 宮原三郎 九州大学大学院理学研究科教授

○沖縄地区(1名)

《監事》(2名)

○全国区(2名)

永田 雅 気象庁予報部予報課太平洋台風センター予報官
 徳野正巳 気象衛星センターデータ処理システム管理課調査官

議案 5

2. 理事候補者選挙当選者からの推薦による理事候補者

《理事》

○全国区(5名)

近藤 豊 東京大学先端科学研究センター教授(1949.11.24生)

推薦理由:近藤会員は、対流圏、成層圏を問わず、オゾンや窒素酸化物を中心に広範な化学反応ダイナミックスの研究、とりわけ航空機による対流圏の広域にわたる大気微量成分の動態の研究、北極成層圏におけるオゾン減少メカニズムの解明などに大きな業績を挙げてきた。学会の発展には、近藤会員の大気化学の豊かな知識とそれに基づいた大気環境問題への洞察力に期待する。

中澤高清 東北大学大学院理学研究科・大気海洋変動観測研究センター教授(1947.10.10生)

推薦理由:中澤会員は、東北大学において今日の温暖化問題に関わる温室効果物質特に二酸化炭素の大気中濃度の観測研究をおよそ20年前から継続して行い、地球環境問題に貴重な科

学的貢献を果たしている。また、2001年10月初旬に二酸化炭素に関する国際科学会議が仙台で開催されるが、この会議の主催者として活躍が期待される。気象学会として、地球環境科学の基礎を固める上で中澤会員に理事としてこの分野の問題に取り組んで頂き、広く学会活動に貢献して頂きたい。

萬納寺信崇 気象庁予報部数値予報課予報官
(1957. 1. 6生)

推薦理由：萬納寺会員は、気象庁予報部において、領域モデルの開発を担当している数値予報の専門家である。天気予報の精度向上のために、気象学の進歩を基礎に数値予報モデルの改良に努めている。また、世界気象機関の基礎組織委員会において専門家チームメンバーを務め、世界的な気象事業の発展のために活動を行っている。これらの知識と経験を学会活動にも生かしていただきたい。

勝山 税 気象庁観測部観測課統計室
(1955. 9. 24生)

推薦理由：勝山会員は、現在気象庁観測部観測課統計室に所属しているが、これまで経験した業務から得られた、地上気象をはじめとする各種の気象観測に関する幅広い知識を有している。また、予算事務などの経験も豊富でこれらの能力を学会活動に生かしていただきたい。

澤井 哲滋 気象庁予報部予報課大気汚染気象センター所長 (1947. 7. 6生)

推薦理由：澤井会員は、気象研究所において霧の発生機構の研究を行って後、気象庁の予報関連業務や、気象大学の大学部学生と地方の気象官署からの研修生に対する教育に携わってきた。この間、学会の大会

やシンポジウムにおいて研究成果の発表に努め、学会活動においては、第30期に常任理事として教育と普及委員会の任に当たってきた。

こうした実績を踏まえ、学会活動において引き続き、その経験を生かしてもらえと期待する。

○中部地区

白木正規 名古屋地方気象台長
(1944. 12. 26生)

推薦理由：白木正規会員は、気象庁における幅広い分野を経験し、特に気象予報の現場とその知識の普及に貢献してきた。また、学会の理事の経験もあり、中部地区の学会活動とその運営にこれまでの経験を生かして頂けることが期待できる。

○沖縄地区

春日 信 沖縄気象台長
(1941. 8. 27生)

推薦理由：春日会員は永年にわたって気象庁本庁はじめ沖縄気象台及び釧路地方気象台などで現業業務及び管理業務を経験し、それぞれの職場で多大の業績をあげている。また、これまで気象学会の発展にも尽力している。とくに1984-86年には多忙な職務の傍ら、常任理事として活躍し、学会の発展に尽力した。

同会員は、これらの経験と豊富な知識を生かして、第31期の理事として活躍する事が期待される。

議案 6

2000年度事業計画 (案)

1. 機関誌等の刊行

- (1) 天 気 47巻4号～48巻3号
- (2) 気象集誌 78巻2号～79巻1号
- (3) 気象研究ノート 198号～201号
- (4) 大会予稿集
春季大会 77号 秋季大会 78号

2. 会議等の開催

- 通常総会 2000年度総会 (5月25日)
- 理事会 3回 (5月、10月、3月)
- 常任理事会 10回
- 評議員会 1回
- 監事会 1回 (4月)

3. 各委員会等の活動

- 天気編集委員会
- 気象集誌編集委員会
- 気象研究ノート編集委員会
- 総合計画委員会
- 講演企画委員会
- 教育と普及委員会
- 学会賞候補者推薦委員会等
- 国際学術交流委員会
- 電子情報委員会
- 用語検討委員会

4. 大会及び研究会等

- (1) 春季大会
2000年5月24(水)～26日(金)
つくば市：つくば国際会議場
(担当：気象庁気象研究所)
シンポジウム 5月24日(水)
題名：21世紀の気候変化
—予測とそのままの—

(2) 秋季大会

2000年10月18(水)～20日(金)
京都市：京都テルサ
(京都市南区東九条下殿田町)
(担当：関西支部)

シンポジウム 10月19日

題名：人工衛星からの大気観測
—その歴史的展開—

(3) 研究連絡会、月例会等

- ・ IGBP / GAIM研究連絡会
- ・ 極域・寒冷域研究連絡会
- ・ メソ気象研究連絡会
- ・ オゾン研究連絡会
- ・ 大気海洋陸面相互作用研究連絡会
- ・ 気象教育研究連絡会
- ・ 山の気象シンポジウム
- ・ 長期予報と大気大循環
- ・ レーダー気象
- ・ 日本学術会議気象研連

5. 研究業績の表彰

- ・ 日本気象学会賞
- ・ 藤原賞
- ・ 山本・正野論文賞
- ・ 堀内賞
- ・ 奨励賞

6. 支部活動

- (1) 各支部研究発表会
- (2) 気象講演会
1) 北海道支部
期 日：2000年10月28日
題 目：北海道の農業と気象

2) 東北支部

期 日：2000年10月12日(予定)

題 目：山形県の農業・経済と
気象環境

3) 九州支部

期 日：2001年3月(予定)

題 目：未定

4) 沖縄支部

期 日：2000年9月予定

題 目：未定(防災気象関係)

7. 普及活動

(1) 第34回夏季大学

期 日：2000年8月23(水)～25日(金)

題 目：雲をつかむ

(2) 北海道支部第18回夏季大学

期 日：2000年7月下旬(予定、2日)

題 目：新しい気象学

(3) 中部支部 第7回気象講座

期 日：2000年8月(予定)

題 目：未定

(4) 関西支部第22回夏季大学

期 日：2000年7月25、26日

題 目：未定

(5) 気象技術講習会

8. 対外活動

(1) 地球環境科学関連学会協議会参加

(2) 地球惑星科学関連学会合同大会の
テーマ別セッション共催(3) 国際ゾッポンボゾウム2000年国内組織委
員会共催

(4) IUGG2003年大会準備参加

(5) 第6回国際二酸化炭素会議(仙台)
準備

9. 国際学術交流活動

気象学における国際的な発展及び交流
を図るための、国際交流事業への支援を
行う

10. 電子情報関連

(1) 学術情報センター電子図書館サービス
への対応

(2) 学会ホームページ管理運営

(3) 気象データの有効利用

11. 事務局の構成

事務局長 島津 成之
 舘 英男
 鈴木 忠臣

(社団法人) 日本気象学会
1. 収入の部 (1) (円)

収 支 予 算 書 (案)
2000年度 2000年4月1日より 2001年3月31日まで

勘 定 科 目	99年度 予算 (A)	99年度 決 算	00年度 予算 (B)	内 訳		増 減 (B)-(A)	備 考
				公益部門	収益部門		
1. 会費収入	40,815,000	40,822,702	39,701,000	39,701,000		△ 1,114,000	
2. 基本財産運用	705,000	524,983	564,995	564,995		△ 140,005	
3. 事業収入	39,285,000	40,642,421	38,878,000	14,861,000	24,017,000	△ 407,000	
4. 補助金収入	5,310,000	4,510,000	4,510,000	4,510,000		△ 800,000	
5. 寄付金収入	0	100,000	0	0		0	
7. 引当金取崩収入	0	1,222,800	0	0		0	
8. 雑収入	254,000	840,206	502,900	452,900	50,000	248,900	
当期収入合計	86,369,000	88,663,112	84,156,895	60,089,895	24,067,000	△ 2,212,105	
前期繰越収支差額	15,707,010	15,707,010	16,489,971	14,776,648	1,713,323	782,961	
収入合計	102,076,010	104,370,122	100,646,866	74,866,543	25,780,323	△ 1,429,144	

